

施設紹介

Albert Einstein 医科大学

北 畑 洋*

Albert Einstein 医科大学は New York 市 5 区の中の 1 つである Bronx 区にあり Manhattan の北に位置しています。Bronx というと、昔黒人の事件が起こったことや廃虚と化した South Bronx を想像される方も多いと思いますが、大学は North Bronx にあり、世界第 2 の規模の Bronx 動物園や植物園等、静かで自然豊かな環境に囲まれています。

1. 施設と概要

大学は 1955 年に Yeshiva 大学の一環として設立され、当初 1 クラス 56 名だった学生数も現在では Belfer Institute の Postgraduates を含めると 800 名を越えています。キャンパスは、Forchheimer, Ullmann, Mazer buildings と Belfer Educational Center for Health Sciences, Chanin Institute for Cancer Research, そして大学病院と、広い敷地内に建てられた 6 つの施設から成ります。

この大学の特色は、多くの基礎科学分野や医学の専門家を含む Umbrella Programs と呼ばれるシステムを発展させてきたことです。このシステムは多くの分野の研究者からなる Center や Institute を作ることににより、従来から各科や各専門家の間にあった伝統的な障壁を取り除き一体となって研究を行うものです。この成果として、Alzheimer 病や小児 AIDS の研究においては国際的にも指導的な立場にあります。

約 15 万冊を超える蔵書を有する図書館は、特に journal が充実しており、もちろん MEDLINE や TOXLINE などの文献検索も利用できますが、

学生や海外からの研究者に好評なのは無料で利用できる Mini-MEDLINE です。これは 5 台のターミナルを持っており、いつでものんびりと自分で検索することができます。また、プール、スカッシュ・ラケットボール用コート、ランニングサーキット等、様々な運動設備を備えたアスレチックジムや、28 階建ての Low Residence が 3 棟あるなど、学生にとっては恵まれた環境となっています。

2. 臨床施設

学生、Resident 及び Fellow の臨床研修プログラムは複雑で多くの病院と提携した共同プログラムを持っていますが、主な研修病院は以下の通りです。

• Bronx Municipal Hospital Center (BMHC)

大学のすぐ隣にあるこの Center は 1955 年の当初から大学と提携してきました。Center は Jacobi 病院と Van Etten 病院からなり 776 床を有しています。年間の外来患者数は約 322,000 人、入院患者数は約 26,000 人、救急外来患者数は約 144,000 人です。

また BMHC は Level 1 Trauma Center and Burn Center として New York 市で最初に資格を受けた病院です。Trauma Center のユニークな点は、Bronx 動物園のスタッフと協力してヘリコプター移送システムを持つ Snakebite Center として指名されていることです。

この病院は Public 病院のため低所得者階級の患者が多く、学生用のパンフレットにも、「広い範囲の経済的、民族的、人種のグループを見るため……」と説明されています。

*徳島大学医学部附属病院麻酔科



写真1 Ullmann Building (大学) と、よく卒業生の記念撮影の場所となる Albert Einstein の銅像

• Montefiore Medical Center

1884年に設立されたアメリカでも最も古い Center の1つです。1963年からは大学と提携した最初の Voluntary Hospital となりました。全

体として約3,000床を有する大きな Center ですが、中心となるのは West Campus と呼ばれる Moses Division です。この病院は745床を有しており今年数百万ドルをかけた改築工事も終了、そ



写真2 古い面影を残す Montefiore Medical Center の入口



写真3 大学病院 Jack D. Weiler Hospital of the Albert Einstein College of Medicine (WHAECOM)

して新しくなった North Pavilion には超近代的な手術室が19室, 術前患者 Holding Area, 21床の回復室, CCU 12床, Intermediate CCU 38床, ICU 34床を備えています. 年間の外来患者数は約137,000人, 救急外来患者数は約71,000人, 入院患者数は約24,000人, 手術件数は約11,000例です.

Cardiology の分野は経静脈心臓ペースングの開発や電話によるペースメーカーモニターの紹介などで以前から良く知られており, 心臓カテーテル室は1946年に世界に2番めに設立されました. また Home Care Program のパイオニアとしても広く知られており, 1947年に始まったこのプログラムは他のアメリカの病院のモデルとなってきました.

• 大学病院 (WHAECOM)

1966年に開かれた431床を有するこの病院は, 1969年からは Montefiore Medical Center に属し, 現在は East Campus と呼ばれています. この病院もまた新しく完成した West Addition に近代的な小児透析室, CCU 15床, ICU 14床を備えています. 年間の外来患者数は約44,000人, 入院患者数は約17,000人, 手術件数は約10,000例です.

3. 人員体制

現在, 麻酔科には約70名の Attending と約70名の Resident, Fellowがいます. 私の在籍する Cardiovascular Division にはそのうち約35名が所属しています. 開心術は年間約1,000例行われておりそのほとんどが CABG です. 通常 Attending 1名, Fellow 1名, Resident 1名の計3名で麻酔を担当しています.

麻酔方法は, Sufentanil (Fentanyl), Midazo-

lam, Vecuronium (Pancuronium), で導入し, Sufentanil と必要に応じて低濃度の Isoflurane で維持するというのが Standard のようです. いろいろなテクニックやモニターは日本とほとんど同じですが, 全室に各麻酔剤の呼気終末濃度計の付いたカプノグラフ, パルスオキシメーターが装備されていることや, 経食道心エコーを使って Wall Motion や Valve 機能などを全例モニターしていることが特徴です.

外科医は Attending 1名, Fellow 1名, Resident 1名, Physical Assistant 1名の計4名, それに Perfusionist 2名, 看護婦2名を加えて1つのチームを組んでいます. 人種のるつぼといわれる New York らしく, アメリカ, キューバ, インド, タイ, ユダヤ, 中国, 韓国そして日本と, ほんとに国際色豊かな多国籍チームです.

また女性パワーの進出もすさまじく, 麻酔科医, Perfusionist はもちろん外科医にも女性が増えており, 全体で12名のチームのうち, 男性は3名だけという時もあるほどです.

少々ラフな面もありますが, 準備中などは手術室にロックミュージックが鳴り響き, 画一的な手術着や聴診器にも個性的な工夫を凝らすなど, active で明るいいかにも New York を感じさせる病院です. そしてその臨床面におけるチャレンジ精神と肉体的にも精神的にも真似のできないパワーには, いつもながら感心させられてしまいます.

現在麻酔科には4人の日本人 Fellow が勤務しており, West Campus では長島先生のもとで2名が筋弛緩の研究に, East Campus では丘先生のもとで私を含めた2名が心エコーと Jet Ventilation の研究を行っています.